

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

神戸大学

前期日程

科目	化学
----	----

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

4問の出題は例年のおおりで、理論計算・無機分野から2問、有機分野から2問の出題である。この形での準備をしておくとういだろう。

〈特記事項・トピックス〉

大問IとIVで反応速度の設問が出題された。

〈合格への学習対策〉

神戸大化学では教科書の内容をきっちり学んできたかを中心に問われるので、まずは教科書を中心とした日常の学習を大切に、受験を意識した時期になれば、問題演習を重点的に行うことにより重要分野を確実に得点できるようにしておこう。その際には、共通テストも二次試験と出題範囲が重複するので、時間の無駄がないように計画的に学習を進めることを意識するとよい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述 描図	化学	理論化学 反応速度	問5では、触媒を用いたときの反応時間とCの濃度との関係を概略図で示すよう指示されているが、触媒を加えない場合に比べて反応速度が大きくなり、より速く平衡に達するように描くことがポイント。問7では、触媒は均一触媒で逆反応の進行も正反応と同等に促進させることができるものとして解答した。	標準
II	記述 論述	化学基礎 化学	無機化学 カルシウム化合物 熱分解	問7(1)では、試料Aに対する不純物X(CaCO ₃)の質量比を求めるよう指示されているが、発生した二酸化炭素(質量比2.2%)の物質質量とCaCO ₃ の物質質量が等しいことに着目する。(2)では、試料A中のCa(OH) ₂ に対するCaCO ₃ の『物質質量比』を求めることに注意。	標準
III	記述 論述	化学	有機化学 構造決定	化合物Aが不斉炭素原子を一つ有し、加水分解後の化合物C(フェノール)には不斉炭素原子がないことから、化合物Dに不斉炭素原子が一つ存在することに気が付かなければならない。化合物Cと化合物D(乳酸)のヒドロキシ基間で縮合させたものが化合物Bである。問6では、くさび型表記で解答するよう指示されているが、不斉炭素原子周辺以外の構造式の記入方法が不明で書きにくく感じた受験生も多かっただろう。鏡像異性体の関係にある分子が示されればどのような記入法でも正答とされるだろう。	やや難
IV	記述 論述	化学	有機化学・理論化学 アミノ酸、タンパク質 反応速度	問6では、与えられたアレニウスの式の自然対数をとると、図2の直線の傾きが $-E_a/R$ で表されることがわかり、これと問5の解答を用いて活性化エネルギーが具体的に求められる。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階(難・やや難・標準・やや易・易)で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。